

自由律俳句と書

自由律俳句と書

おじやら倫子

ISBN 978-4-901941-45-4

二〇一三年頃でしょうか。バスで
通勤していた時と、その時期の
俳句です。

おじやから倫子

往
路

有料転職サイト

サイホー式コピー

スアホではない回カ

前に並ちつくす

北千住駅で

つたにからまぬり

悪人一面のポスター

長雨さめがめ

とアスファルト

ひととキリ降ら

わたバス待ちの朝

お日様出ている

厚い灰色である

1
日の当る席の

バス発車します

直進す

中るかな

追越禁止の道

1
その再曲がれば

日陰の指定席
1

1
観音、はんの木、こぢや。

西門寺の橋たちを越へ

次停まります

橋の名のつく交差点

終点まで乗って

コンビ

復路

1
すすきの夕日にも

鯉が跳ねてゐる
1

水まゝ女に守らぬる

花にも夕日

Handwritten text in Arabic script, likely a name or title, written vertically on a white strip of paper. The text is: **محمد بن عبد الله**

バス待ちの

蚊が血だらけ

ス イ ッ チ オ ニ ス イ ッ チ

オ ニ と 鳴 く

つ く つ く ば う し よ

小さな蚊取り

スイッチ赤く点く

イランから来た男は
母国に帰るのかと聞く

難民なのでもう帰る
ないといふ答へ

夢の詰まった

メモ用紙である

また右折して

土口牛の前

あとがき

自由律の俳句は、すみ問の

時空に、思いつくまま、筆回し

とめていきます。俳句とは思え

ない作品も含まれておりますが、

自分の愉しみや、その時の
記憶とセットなので、集にまと
めました。

—
書くとしたら、ありがとうございます。
いろいろお世話です。

11月16日

倫子

—



rica@ojara.net